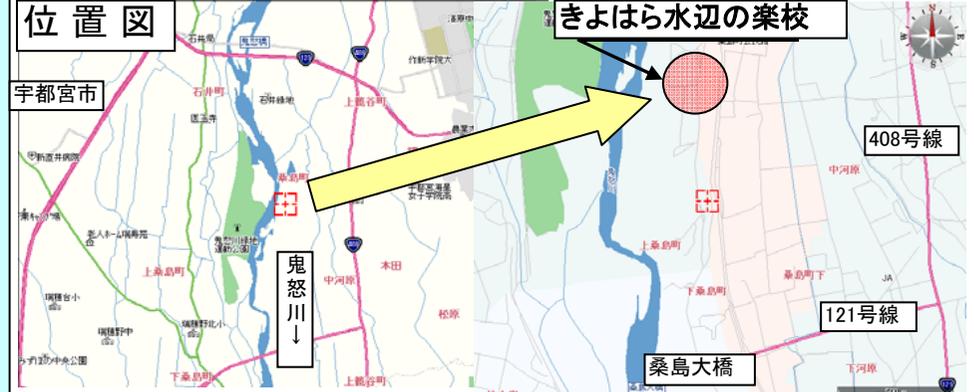


伐採木利活用であずまやを現地で製作

とち木`の会協力・真岡工業高校実習教育に活用

伐採木の処分に関する費用の節減と伐採木利活用の取組のさらなる拡大と推進を図るため、宇都宮市桑島町地先（鬼怒川左岸）にあずまやを試行的に製作し、設置しました。ここは、「きよはら水辺の楽校」の活動場所に面し、年間をとおして実施される種々の活動の拠点として利用することが出来ます。

また、設置にあたっては、「地球温暖化防止」と「地産地消運動」の一体化を推進している「とち木`の会」が指導者として協力し、真岡工業高校建築科及び建設科の生徒達が実習教育として参加しました。



【日時】平成21年11月28日（土）・29日（日）

【場所】栃木県宇都宮市桑島町地先
（きよはら水辺の楽校）

【参加者】真岡工業高校

生徒10名（男子8名女子2名）

先生 3名（男性2名女性1名）

「とち木`の会」高橋事務局長、他 1名

下館河川事務所 5人

施工業者 4人

計24名

【四阿寸法】長さ4.55m×巾3.64m×高さ3.0m

【構造】二重野地板構造切妻タイプ

【材料】伐採木：親柱、梁、屋根（竹）

間伐材：棟木、母屋、野地板他



伐採木利用のあずまづくり(真岡工業高校建築生徒)

平成21年11月28日~29日 宇都宮市桑島地先(きよはら水辺の楽校を望む堤防上)

洪水時に支障となった河川敷内伐採木を利用した「あずまや」を間伐材の利活用を推進している「とち木」の会の指導を得て、真岡工業高校の建築科1~3年生が建てました。

28日



朝礼:作業内容と安全確認を打ち合わせる



伐採木の柱に梁や桁を載せる



梁にモヤ・ムネ木をセット



半分に割った竹の節抜き・表面ブラッシング



垂木等のセット



垂木等のビス打ち



内部梁にも曲がった伐採木使用



柱はニセアカシア・けやき材、柱間1.8×2.7m



野地板を寸法測定し、切断準備



野地板を切断機によりカット



野地板のバーナーによる焼き焦がし



野地板をブラッシングし、木目出し



野地板を横方向に設置



通湿シートを張って固定



通湿シートにキスリ・ノブで固定



野地板縦方向に設置



休憩タイム:鬼怒川の歴史勉強会



休憩タイム:竹トンボ名人からの竹トンボ教室

伐採木利用のあずまやづくり(真岡工業高校建築生徒)

平成21年11月28日~29日

宇都宮市桑島地先(きよはら水辺の楽校を望む堤防上)

29日



伐採竹の高さを3cmでカット(裏表で50本)



屋根の裏表に同じ竹が来るよう同じ番号明示



野地板に防水シートを張る



防水シートの接着固定と端部カット



墨だしにより雨パイ固定箇所の明示



角材は、切断機によりカット



竹の下地部材の固定



河川敷側からの状況



柱や梁・桁の焼き焦がしをブラッシングし木目を出す



雨パイのセット・固定



孟宗竹のセット・固定



竹の最後の調整



真岡工業高校生から

- ・貴重な経験として、こんなプロジェクトに参加できて大変うれしいです。
- ・木を有効利用ができることは、大変良いことだと思います。
- ・学校の課題で研究でエコに取り組んでいるので、今回の作業は勉強になりました。
- ・伐採木の再利用は、無駄をなくすことにつながり、環境にいいと思う。
- ・自分たちの造った建物が実際に役に立つのはうれしい。



真岡工業高校生10人 全国に一つ、みんなで造ったあずまやの前で